



# 開田小学校だより



令和7年 6月30日(月) 文責：草間隆志

学校 HP も  
のぞいてください



## 爽やかに 校内音楽会

6月13日(金)、校内音楽会がありました。保護者の皆様をはじめ、地域の皆様、デイサービスを利用されている皆様、こども園の園児の皆さんにもお越しいただき、体育館中に響き渡る歌声や合奏を楽しんでいただきました。



開田の冒険に出かけたキラキラ探検隊の1・2年生は、冒険の途中でたぬきやかっこう、カエルにも出会い、その様子を覚えたばかりの鍵盤ハーモニカや元気な歌声で表現することができました。



笛星人となって開田にやってきた3・4年生は、自分たちの星に帰るために心地よい笛の演奏を披露し、最後には心を一つにして「元気勇気から」を歌い上げることができました。

5・6年生の「響け！！開田小シンフォニー」では、頭声発声を意識したしっとりとした歌声と、少人数を感じさせない大迫力の合奏「アフリカンシンフォニー」で、会場の方々を魅了しました。

開田高原の風景と子どもたちの歌声や合奏はとても合います。今年も、開田高原に爽やかな風(音)を感じる1日となりました。

今日、音楽会がありました。私の目標は、小学校最後の音楽会だから全力で歌って、きれいで「ワーッ」となる発表にすることでした。

(中略)合奏では、周りの人の音を聞きながらタイミングを合わせました。お母さんは、今日の発表を聞いて、「ワーッ」となったらしいです。目標が達成できてうれしかったです。(6年女子)

私は、こいのぼりを歌うときに、屋根に向けて声をあげました。お客さんが手拍子をしてくれたのが力になって、最後まで歌いきることができました。(5年女子)

合奏は、「なんか、テンポ速くない!？」と心の中で不安に思ったけれど、なんとかついていけて、楽しく演奏できてよかったです。(5年男子)

恥ずかしがらずにできた。上手にできた。大きい声で歌えた。前を見てできた。(1年女子)

頑張ったことは、鍵盤ハーモニカでずっと息を切らさなかったことです。(2年男子)

## 6月21日(土) 木曾町小学生相撲大会



3分で決着がつかず、再試合。それでも決着がつかず、また再試合。限界を超えて戦う1年生女子の姿を見て、多くの方が目にいっぱい涙をためていました。

土俵際に足がかり、万事休すと誰もが思ったところで体を翻して形勢逆転した6年生の姿に、大きな歓声が沸きました。

きっと、それぞれにパッと思い浮かぶシーンがあることでしょう。「たとえ負けても、気持ちのよい挨拶をして土俵を去る姿に感動しました。」「勝ち負けにこだわらず、正々堂々と戦う姿に感動しました。」これは、三岳小学校の校長先生による閉会式での講評の言葉です。子どもたちの「本気」を目の当たりにし、大人たちは様々な場面で大きく心を揺さぶられました。

(前略)〇〇くんと対戦しました。ぶつかったときにすごい振動が伝わってきました。どんなに押しても動かなかったので、びっくりしました。

(中略)◇◇くんは、どんな相手でもひるまず戦っていて、尊敬しました。ほかのみんなもいいところまでいって、いいなと思いました。小学校最後の相撲大会で、みんないい成績が出せてうれしかったです。(6年男子)

一回戦目に戦った相手は、去年戦って私が負けたから怖かったけど、頑張ったから勝ててよかったです。二回戦目に戦った相手は、去年1位になった子でした。怖かったけど頑張ったから、勝てそうだったけど負けてしまい悔しかったです。また、戦いたいです。来年も頑張りたいです。(3年女子)

(前略)本土俵の前に座ると、すごい緊張したけど、賞状が取れてよかったです。次の相撲大会でも賞状を取りたいです。(4年男子)



## 6月13日(金) PTA・CS 作業

音楽会のあった午後、再度保護者、地域の皆様にお集まりいただき、PTA・CS 作業が行われました。日差しが増して気温が上昇する中、草刈りや小川の整備、窓拭き、ワックスがけ等を精力的に行っていたいただき、子どもたちが安全・快適に過ごすことのできる環境となりました。ありがとうございました。

子どもたちも、音楽会の充実感を保ちつつ、目の前の奉仕活動に一生懸命取り組んでいました。

## 6月24日(火) 植樹祭

「開田高原観光拠点施設である木曾馬の里入り口付近の伐採跡地にツツジやモミジを植栽し、花見や紅葉の名勝地を住民協働で整備することで、魅力ある観光地をめざす。また、本年度末に開田中学校が閉校となることから、その記念植樹を併せて実施する」ことを目的に、植樹祭が行われ、3・4・6年生が参加しました。

鍬で穴を掘る作業は大変そうでしたが、開田の新しい名所にしたいと願い、やりがいを感じているようでもありました。当日は、中学生、地域の方々と一緒に活動しました。このように、開田の住民が集い、共通の目的のために協力して成し遂げることの素晴らしさを感じました。



## 6月の校長講話より『エジソンは何回失敗したのでしょうか？』

校長室だよ！ R7.6.30

(電球を出して) この電球を発明した人のお話をします。知っていますか？

そう、エジソンです。ちびまる子ちゃんの歌で「エジソンはえらい人～」という歌詞があるので、エジソンという名前は聞いたことがあるという人は多いかもしれませんね。1300以上の発明をして、発明王と言われている人です。

ただ、最初に電球を発明した人はエジソンではありません。ジョセフ・スワンという人がエジソンより1年前に電球の発明に成功しています。スワンって知っている人いますか？

校長先生もスワンという人は知りませんでした。どうして、最初に電球を発明したスワンより、エジソンの方が有名なのでしょうか？ 実は、スワンの電球は短い時間(40時間)しか点灯しませんでした。それに比べて、エジソンの電球は、その25倍の1000時間も点灯し続けることができたのです。エジソンが長い時間点灯する電球を発明したからこそ、世の中に電球が広まったのです。つまり、多くの人が電球を使うことができるようになったのは、エジソンのおかげだということで、エジソンのほうが有名になったということです。

では、ここで問題です。

エジソンは、電球を長い時間点灯させるために、何回、実験をしたのでしょうか？

①1回 ②10回 ③100回 ④1万回

①だと思ふ人？ ②だと思ふ人？ ③だと思ふ人？ ④だと思ふ人？

正解は、1……万回です。2万回という説もあります。でも、1万回の実験ってすごいですよね。当時の人もそう思ったみたいです。インタビューで「1万回、失敗しても実験を続けたことは…」と聞いたとき、エジソンはこう答えたそうです。

「I have not failed. 私は失敗なんかしていない」インタビューしていた人は驚いたでしょうね。

「いやいや、1万回失敗したって聞いてますけど…」と、心の中で突っ込んでいたと思います。

エジソンは、話をこう続けたそうです。

「この方法では、電球は光らないという発見を今までに1万回してきたのだ」

「それは失敗じゃなくて、その方法ではうまくいかないことがわかったんだから成功なんだよ」

また、次のようなことも言っています。

「私たちの最大の弱点はあきらめることにある。成功するのに最も確実な方法は、常にもう1回だけ試してみるのだ」

だから、エジソンは電灯がつかなくても、そこであきらめずに「もう1回やってみよう！」と実験を続けたんですね。エジソンが、実験を1万回も続けることができた秘密はこのあきらめない気持ちをもっていただからなんですね。もう無理だと思ったところから、さらにもう1回がんばることが大切だということです。

夏休みの自由研究をする中に、もしかしたら、うまくいかないことがあるかもしれません。そんなときにこそ、今日の話思い出して、あきらめずに「もう1回やってみよう！」とがんばってくださいね。

### 保護者の皆様へ

エジソンの話の前に夏休みの自由研究(『〇〇はかせちゃん』になろう)の話をしました。

今年も夏休みの自由研究を行います。各学年のタイミングで『自由研究 計画書』が配られます。

内容については、子どもたちが好きなことや興味のあることに夢中になって取り組む姿を期待していますが、“何をしたらいいのかなあ”“どうやってやったらいいのかなあ”と悩む姿も想像でき、『自分で決めて、自分でやる』とは言っても、計画を立てる段階でも、取り組んでいく段階でも、おうちの方々のご協力をたくさんいただく子どもたちも多くいることと思います。

やがて、「小学校〇年生の夏休み、あれやったなあ」といった楽しかった思い出として残るよう、ご協力をよろしくお願いいたします。